

美麗島事件と光州事件からみる 「アジア連帯」

日本の社会運動がアジアへ目を向けていった時代——

2019年は、国際的に注目を集め台湾民主化の転換点となる美麗島事件から40周年を迎えます。東京では1976年に台湾の政治犯を救う会が発足し、長年にわたり白色テロに苦悩する台湾の人びとに手を差し伸べてきました。一方、韓国で1980年に発生した光州事件での出来事を外部に知らせたのは外国人記者やキリスト教関係者でありました。事件で死刑判決が言い渡され、のちに大統領となる金大中氏の救援に乗り出した「日韓連帯」の意味も決して少なくありません。

シンポジウムでは、美麗島事件と光州事件を通じて、アジア民主主義におけるトランスナショナルな連帯の歴史とその今日的な意味について考えます。

11月2日(土)

<国際シンポジウム> *13~14時はドキュメンタリー映画上映

高雄1979、光州1980:二つの民主化運動40年

- ・劉京南／曹娥羅（韓国・全南大学）
- ・李美淑（立教大学）
- ・薛化元（台湾・国立政治大学文学院院长）
- ・陳儀深（台湾・総統府国史館館長）

11月3日(日)

<講演会>

真相・和解・伝承 台湾の白色テロと移行期の正義を考える

- ・蔡焜霖（白色テロ受難者）
- ・龔昭勳（フリーライター）

日時 2019年11月2日(土) 13:00~18:00

11月3日(日) 10:00~12:30

場所 北海道大学情報教育館3F スタジオ型研修室

(札幌市北区北17条西8丁目)

(事前申し込み不要、通訳あり)

主催：北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院

東アジアメディア研究センター／メディア・ツーリズム研究センター

科研費（基盤C） 「戒厳令期台湾の民主化運動とキリスト教 在外台湾人組織の分析から」

問い合わせ：東アジアメディア研究センター（電話／011-706-5143、e-mail／eastasian2@imc.hokudai.ac.jp）